

臨床検体使用に関するお知らせ

『研究課題名 腹会陰式直腸切断術後の会陰創感染の危険因子の検討』

【研究の背景および目的】

腹会陰式直腸切断術は直腸癌や肛門管癌に対する術式の一つです。創部感染は様々な術式の中でも多いとされ、会陰創の感染は 57%の患者さんに発生するという報告もあります。一度会陰創の感染が発生すると、痛みが生じ、抗菌薬の投与の長期化、ドレナージや再手術、入院期間の延長など不利益が生じます。

そこで、東邦大学医療センター大森病院一般・消化器外科では、腹会陰式直腸切断術後の会陰創感染の危険因子を検討することを目的として本研究を計画しました。

この研究で得られる成果は、創部感染の予防対策につながります。

【研究対象および方法】

この研究は、東邦大学医療センター大森病院倫理委員会の承認を得て実施するものです。

2004年12月～2014年8月までに東邦大学医療センター大森病院一般・消化器外科において、原発腫瘍に対して待機的に腹会陰式直腸切断術の手術を受けた症例(73例)を対象とします。

診療録(カルテ)から抽出した情報および会陰創感染の状況を解析することにより、会陰創感染に影響を与える因子を調査します。

今回の研究で得られた成果を、医学的な専門学会や専門雑誌等で報告することがありますが、個人を特定できるような情報が外部に漏れることは一切ありません。

本研究に関してご質問のある方、診療情報や病理解剖結果を研究に利用することを承諾されない方は、下記までご連絡下さい。

【連絡先および担当者】

東邦大学医療センター大森病院

一般・消化器外科

職位・氏名 シニアレジデント 後藤 麻佑

電話 03-3762-4151 内線 6530